

**ADL**

[英] activities of daily living

身体的リハビリテーション領域において、日常生活に必要とする活動を単純な動作に分割して練習したため、当初は日常生活動作と訳されたが、現在では日常生活活動と呼ばれる。第二次世界大戦で大量に発生した傷病者が社会復帰するための具体的な目標として工夫された。後に行動学的モデルで階層構造として理論化された。Katz Sら [1963] は基本的 ADL (basic ADL; BADL) に整理した。さらに、実際の生活場面で用いる基本的活動に注目して、Lawton MP ら [1969] は手段的 ADL (instrumental ADL; IADL) を、Reuben DB [1989] は上級 ADL (advanced ADL; AADL) を提唱した。精神障害、発達障害、高次脳機能障害などの認知行動障害では、BADL に問題はなくても IADL や AADL に現れることになるが、わが国の障害程度区分は BADL で規定している点が制度的課題となっている。従来の ADL 概念では心身機能の現状と目標を整理するうえで限界があり、国際生活機能分類などの障害構造にもとづく新たな ADL 概念が求められる。

(野中 猛)

⇒国際生活機能分類 [ICF], 精神科リハビリテーション [社会復帰]

[文献] Katz S, Ford AB, Moskowitz RW, et al. (1963), Lawton MP, Brody EM (1969), Reuben DB (1989)

**A-T スプリット**

[英] A-T split

1970 年代前半、岩崎徹也によってわが国に紹介された Kernberg OF の精神分析的入院治療論に着想を得て、小此木啓吾が日本独特の含蓄をもつ治療方法として普及させたものである。それは、一人の患者に精神分析あるいは精神分析的な精神療法を行うとき、それを担当する精神療法者 (psychotherapist)

とは別に管理的役割を担う医師 (administrator) を設定する方法である。空想と現実、転移、意識と無意識を理解するために中立的・受身的・非判断的あるいは平等に漂う注意を維持せんとするのが精神療法の基本的態度である。つまり、助言・指示・薬物の処方などといった現実の仕事は精神療法的態度と矛盾をきたすのである。ゆえに病態を問わず、現実的対応を必要とする患者の場合、役割分担で対応するのである。チーム医療という広い視座から見ると、この方法はチーム医療の一つの側面と考えることができる。

(狩野力八郎)

⇒チーム医療、平等に漂う注意、分析状況/分析設定

[文献] 狩野力八郎, 川谷大治 編 (2007), 狩野力八郎 (2009)

**エディプスコンプレクス [フロイト]**

[英] Oedipus complex

[独] Ödipuskomplex

[仏] complex d'Édipe

精神分析の理論において中核的な地位をしめるコンプレクスである。コンプレクスとは人間の感情や思考やふるまいに強く影響する、大部分は無意識的な記憶や観念や思考の束をいう。Freud S は人間の心的生活を規定する基本的なコンプレクスとして、ギリシャ神話のエディプス王の物語を下敷きに、この概念を生み出した。エディプスコンプレクスはおおむね、異性の親に対する性的欲望、同性の親にとってかわり、亡き者にしようとする願望、こうした願望に対する異性の親からの処罰の恐怖、もしくは罪悪感を内容としている。この陰画に当たる同性の親を愛し、異性の親を憎む布置を陰性エディプスコンプレクスと呼ぶ。

無意識と幼児性愛とエディプスコンプレクスの発見こそ、フロイト理論の礎石である。幼児は自らの性的身体と性的欲望を引き受け、

「融和的逆転移」と呼び研究を重ねている。

(衣笠隆幸)

⇒転移, 投影同一視, コンテイナー/コンテインド, 訓練分析, 自己分析, 修正感情体験, 精神分析療法  
**【文献】** Bion WR(1962a), Freud S(1910b), Heimann P (1950), Money-Kyrle R (1956), Racker H (1953), Grinberg L (1962)

## 逆向健忘

[英] retrograde amnesia

即時記憶 - 近時記憶 - 遠隔記憶という区分が現在を起点とする時間区分であるのに対して, 前向健忘 - 逆向健忘という区分は健忘を生じる原因となった疾患や外傷の発症時点を境とした分類である。前向健忘では, 発症以後に体験した出来事がおぼえられない (ないし思い出せない)。これに対して, 本来おぼえていたはずの発症以前の出来事を思い出せなくなる現象が逆向健忘である。前向健忘は記銘力障害あるいは近時記憶障害と重なる部分が多く, 一方, 逆向健忘は遠隔記憶障害と重なる部分が多い。記憶障害患者では通常, 前向健忘と逆向健忘の両方を認めるが, どちらか一方のみの特殊な場合も知られている。逆向健忘のみを呈する場合, 孤立性 (選択性) 逆向健忘と呼ばれる。逆向健忘の範囲は発症前の数時間程度のこともあれば, 数十年に及ぶこともある。長年の逆向健忘を認める場合, 遠い昔のことはおぼえていても, 比較的最近の出来事は思い出せない (時間的傾斜現象)。

(三村 將)

⇒前向健忘, 記憶障害, 健忘, 部分健忘, 全生活史健忘, 心因健忘, 近時記憶

**【文献】** 池田学, 小森憲治郎 (1999), 三村將 (2003)

## GABA ギャバ

[英] gamma-aminobutyric acid

ガンマアミノ酪酸の英語名 gamma-aminobutyric acid の頭文字からとった略称。グルタミン酸脱炭酸酵素によって, グルタミン酸

から合成される。脳の主要な抑制性神経伝達物質の一つ。GABA 受容体は A, B, C のサブタイプに分類されているが, GABA の主たる抑制作用は, GABA<sub>A</sub> 受容体の塩素イオンチャンネルの開口を介するものである。エタノールやベンゾジアゼピン系薬剤, バルビツール酸系薬剤などは, いずれも GABA<sub>A</sub> 受容体と結合し, GABA の作用を増強する。また, バルプロ酸は GABA 分解酵素である GABA トランスアミナーゼを阻害し, 抑制性シナプスにおける GABA 濃度を上昇させる。GABA を神経伝達物質とする GABA ニューロンには多くのサブタイプが存在するが, その大部分は介在ニューロンであり, 局所神経回路の制御に関与している [Klausberger T ら 2008]。GABA と精神疾患の関連については, 不安障害において多くの報告がある。さらに近年, うつ病患者の前頭前野における GABA レベルの低下を示す機能画像研究や, 脳脊髄液中の GABA レベルの低下を示す臨床研究など, 気分障害に GABA ニューロンの機能不全が関与していることを示唆する報告が増えている [Kaluff AV ら 2007]。また, 分子遺伝学的研究により, GABA<sub>A</sub> 受容体を介する抑制性神経伝達系の異常が統合失調症の発症基盤に関与していることも指摘されている [Charych EI ら 2009]。GABA は精神疾患の新たな治療ターゲットとなる可能性がある。

(神野尚三)

⇒ベンゾジアゼピン受容体, バルプロ酸, 淡蒼球

**【文献】** Klausberger T, Somogyi P (2008), Kaluff AV, Nutt DJ (2007), Charych EI, Liu F, Moss SJ, et al. (2009)

## GABA 受容体 → GABA

## GAF ギャフ

[英] Global Assessment of Functioning

DSM-III-R 以降の多軸診断の第 5 軸として被験者の機能の概要を評価するために取り

に対する恐怖に重点がおかれるのに対して、necrophobiaは死体に対する恐怖も含み、また、死にまつわるもの（棺など）に対する恐怖を含むこともある。

(中尾和久)

⇒恐怖症, 神経症, 埋葬恐怖

## 視空間失認

[英] visual spatial agnosia

空間の認知障害と定義される空間失認の中で、一次的な視覚障害がないのに視空間の認知が障害されたものをいう。これは、対象そのものの認知障害（失認）ではなく、空間における対象の占める位置や、それぞれの位置関係についての視覚的認知や心象の障害であり、近年、視空間知覚と認知の障害 [Farha MJ 2003], 視空間と心象の障害 [Nichelli P 1999] のもとに論じられるようになっていいる。ここに含まれる障害像としては、視覚座標系異常（視軸の歪曲）、遠近視・立体視・運動視の異常、自己の身体を座標軸の中心に置いた外空間対象の空間定位の障害である注視空間障害（バリエント症候群：精神性注視麻痺・視覚性注意障害・視覚性運動失調と半側視空間無視など）、外空間に座標軸を置いた自己定位の障害である地誌的障害が含まれる。地誌的障害には道順障害（地誌的見当識障害）と地図障害（地誌的記憶障害あるいは街並失認）が属する [高橋伸佳ら 1995]。

(宮森孝史)

⇒失認, バリエント症候群, 地誌的障害

[文献] Farha MJ (2003), Nichelli P (1999), 高橋伸佳, 河村満 (1995)

## 軸索内輸送（軸索流）

[英] axonal transport

細胞内小器官、蛋白質、脂質、mRNAなどが軸索の内部を運ばれること。神経細胞の細胞体から軸索の遠位部へ向かう順行性輸送と、細胞体へ向かう逆行性輸送に分類される。順行性輸送はキネシン、逆行性輸送はダイニンと呼ばれるモーター分子が、マイクロチュー

ブルスを足場として、輸送を駆動する [Hirokawa Nら 2005]。細胞内小器官の輸送速度は速く、蛋白質の輸送速度は遅い。（上口裕之）

[文献] Hirokawa N, Takemura R (2005)

## シグマ受容体

[英] sigma receptors

シグマ受容体は、Martin WRら [1976]により各種モルヒネ誘導体の薬理作用の違いからオピオイド受容体のサブタイプとして提唱された。その後、オピオイド受容体のアンタゴニストによって拮抗されないことなどから、オピオイド受容体とは異なる独立した受容体として位置づけられた。一方、受容体結合試験の結果から、シグマ受容体には少なくとも2つのサブタイプ（シグマ-1およびシグマ-2）が存在することが判っている。シグマ-1受容体は、分子量が25.3 kDaで223個のアミノ酸からなる小胞体に存在する膜2回貫通型受容体である。最近の研究より、シグマ-1受容体は分子シャペロンとして機能しており、ミトコンドリアにおけるエネルギー産生にかかわっており、神経可塑性、神経保護作用にも重要な役割を果たしている。さらに精神神経疾患の病態にも深くかかわっている可能性が指摘されている [Hashimoto K 2009]。

(橋本謙二)

⇒オピオイド受容体, 分子シャペロン

[文献] Martin WR, Eades CG, Thompson JA, et al. (1976), Hashimoto K (2009)

## シグマ律動 →紡錘波

### 刺激防壁

[英] protective shield

[独] Reizschutz

[仏] pare-excitations

Freud Sが、心理生理学的モデルを構築するにあたって、外界からの刺激に対して生体を守る機能をもつ表層部分的心的装置として

段により蓄積された情報は診断のみならず神経・筋疾患の病因解明や治療法の開発に寄与する。(池田研二)

【文献】平野朝雄, 富安斉 (2003), 平野朝雄 (2006)

### 神経ベーチェット病

【英】neuro-Behçet disease

1973年にイスタンブール大学皮膚科のBehçet H教授が報告したベーチェット病は、口内アフタ性潰瘍、陰部潰瘍、前房蓄膿を伴うぶどう膜炎を3主徴とし、長年にわたり丘疹、膿疱、結節性紅斑、化膿性皮膚疹の皮膚症状や虹彩毛様体炎などを繰り返す。病態の本質は全身性の血管炎であり、中枢神経症状が優位にみられる神経ベーチェット病は男性に多く、全体の10~25%にみられ、慢性髄膜脳炎、脳幹脳炎、脳脊髄炎などの形をとる。早期からステロイド療法が行われる。

(天野直二)

⇒膠原病

【文献】吉村壮平, 吾郷哲朗, 井林雪郎 (2005)

### 神経ペプチド

【英】neuropeptide

神経ペプチド, あるいはニューロペプチドは、中枢・末梢の神経細胞において前駆体蛋白として翻訳され、その後ゴルジ体でプロセッシングを受け、最終的には数個から数十個のアミノ酸からなるペプチドとなり、軸索末端に運ばれて神経分泌小胞内に貯蔵され、神経細胞の興奮に応じてシナプス間隙に放出され、シナプス後膜上の特定の受容体に結合し情報伝達に関与する物質の総称である。ヒトゲノムには、約90種類の神経ペプチド遺伝子がコードされており、ペプチドレベルでは約100種類知られている。神経ペプチドの中には、低分子の古典的神経伝達物質と同一神経細胞に共存しているものがあり(たとえばコレシストキニンとドーパミン, ニューロペプチドYとGABA), 低分子神経伝達物質

の作用時間や効果を調節している。また、神経ペプチド自身作用時間の長いものがある。これらの場合、特に神経調節物質と呼ばれる。複数の神経ペプチドの共存も知られている。脳内神経ペプチドの多くは消化管や内分泌器官でも合成され、ペプチドホルモンとして働いている。神経疾患ではオレキシンとナルコレプシー [Taheri Sら2002], オキシトシンと自閉症 [Lee HJら2009] との関連などがよく知られている。(吉川武男)

⇒コレシストキニン, ドーパミン, ニューロペプチドY, GABA, オレキシン, オキシトシン

【参考】NEUROPEPTIDES HP

<http://www.neuropeptides.nl/>

【文献】Taheri S, Zeitzer JM, Mignot E. (2002), Lee HJ, Macbeth AH, Pagani JH, et al. (2009)

### 神経変性疾患

【英】neurodegenerative diseases

神経変性とは中枢神経の中の特定の神経細胞群が徐々に死滅すること。神経変性疾患は、“原因不明の代謝障害により、疾患ごとに決まった種類の神経細胞群が、進行性の変性・脱落を生じる結果、さまざまな神経・精神症状を呈する一群の疾患”と定義されてきた。神経変性疾患は、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病など頻度が高く孤発性のものから、ハンチントン病、脊髄小脳変性症1型などのポリグルタミン病のように、個々の疾患としては比較的まれであるが遺伝性を示す疾患まであり、多種多様な疾患群である。

(神庭重信)

⇒アルツハイマー型認知症, パーキンソン病, ハンチントン病, 脊髄小脳変性症

【文献】高橋良輔 編 (2007)

### 神経免疫

【英】neuroimmunology

神経系は永く免疫学的特権部位 (immunological privilege) と呼ばれ、免疫系の監視か

Broccard M, hrsg. (2001), Mosher LR, Burti L (1989)

## ソドミー → 獣姦

### ソフトバイポーラースペクトラム

[英] soft bipolar spectrum

Akiskal HS [1983] による双極スペクトラムの概念が拡大されたもので、うつ病相と躁病相からなる双極 I 型障害を除き、軽躁状態を伴ううつ病から前臨床段階の軽躁的要素を含む気質までの段階的な一連の気分変動の病態を含んでいる [Akiskal ら 1987]。

ソフトバイポーラースペクトラムを示唆する指標として、①双極性障害の家族歴ないし、第一親等の家族におけるリチウムに反応する者の存在、あるいは3世代にわたる気分障害の家系、②三環系抗うつ薬により誘発される軽躁、③混合状態の既往、④適応的なものも含む自生的な軽躁、⑤病前の発揚気質、気分循環性気質、刺激性気質、準感情病性気分変動症、⑥突然の開始と終結をみる周期性うつ病、または季節パターンをもつ周期性うつ病、とりわけ精神運動制止と過眠を伴うもの、⑦若年発症の精神病性うつ病など、を挙げる。

(岡元宗平)

⇒双極スペクトラム

[文献] Akiskal HS, Mallya G (1987)

### ソマティックマーカー仮説

[英] somatic marker hypothesis

前頭前野（とくに腹側および内側）に損傷を受けると、知的機能は保たれるにもかかわらず、将来を見通した長期的な利益を評価した行動がとれなくなり、近視眼的で安易な欲望的・衝動的行動につながりやすくなる。これは情動を含めた広義の認知障害といえる。Damasio AR [1996] は、前頭前野の損傷により情動喚起に障害が生まれ、行動の帰結に対する無関心もたらされ、その結果として

「近視眼的な行動パターン」に至るのではないかと考えた。腹内側前頭前皮質には、その状況に応じた「良い」「悪い」という体性感覚（内臓感覚、筋骨格感覚を含む体内の全感覚情報）が伝えられる。この情動的な価値情報が、これから行おうとする行動プランに付与されると、行動の帰結のイメージが感知されて、社会的な推論や意志決定が修飾される。この仮説は、脳の計算に、身体からの入力関与する可能性を示唆した点で画期的であるが、この仮説の検証・議論はいまも続いている [Dunn BD ら 2006, 加藤隆 2010]。(神庭重信) ⇒前頭前野, 情動

[文献] Damasio AR (1996), Dunn BD, Dalgleish T, Lawrence AD (2006), 加藤隆 (2010)

### ソンディ

Leopold Szondi 1893~1986

チューリッヒの開業精神分析医。顔写真の選択によるソンディテストを開発し、家族的無意識による運命（生き方）の選択を重視した運命分析学説を提唱した。1893年にハンガリーで出生。ブダペスト大学医学部に学び、Ranschburg P に実験心理、児童心理、知能検査、内分泌学を学んだ。1927~1941年の間はブダペストの大学で精神科講師だった。ミュンヘンでは Rüdin E に遺伝体質学を学んだ。1937年には恋愛や結婚相手の無意識的選択への潜在的劣性遺伝子の影響を論じた。1939年に8種の精神疾患の顔写真の選択によるソンディテストを発表した。1946年からチューリッヒでソンディテストと運命分析を研究し開業精神分析医となった。1952年にソンディ研究所を設立、1953年から‘Szondianna’（『ソンディ研究誌』）を発刊、1958年には国際運命心理学会を設立した。ソンディ理論は家族的無意識の選択傾向の精神分析を行うが、根本にはキリスト教的実存哲学がある。Szondi は自らを Freud S の個人的無意識の精神分析と Jung CG の集合的

⇒無動無言症, 閉じ込め症候群, 脳脚幻覚症, 球麻痺

【文献】 平山恵造 (1971)

## 脳幹聴覚誘発電位 →誘発電位

## 脳幹網様体 →網様体賦活系

## 脳器質精神症候群

[英] mental disorders due to brain damage and dysfunction

外因性精神障害と呼ばれるものの一部で、脳の一次的な病変にもとづく精神障害を指す。ICD-10 によれば、「Other Mental Disorder Due to Brain Damage and Dysfunction and to Physical Disease (F06)」に分類されるものである。基礎疾患としては、頭部外傷、脳腫瘍、脳血管障害、脳炎、てんかん等がある。基礎疾患と精神症状群の発症の間に（数週あるいは2～3ヵ月の）時間的関連があることや基礎疾患の除去や改善に伴い、精神疾患も快復する特徴がある。傾眠、昏迷、昏睡など意識水準の低下と、それに錯覚、幻覚、妄想等の精神現象が加わった状態である意識混濁を呈することが多い。意識障害からの快復過程では、内因性精神病に類似した可逆的な感情、意欲の障害、不機嫌、健忘等の症状が出現することがあり、通過症候群といわれる。

(工藤 喬)

⇒通過症候群

【文献】 World Health Organization (1992)

## 脳機能調整薬 →向知性薬

## 脳脚幻覚症

[英] peduncular hallucinosis

[仏] hallucinose pédonculaire

中脳の損傷に伴って出現する幻覚症。原因病巣が脳脚だけではないので中脳幻覚症とも称する。幻視が主であるが幻聴や触覚性幻

覚を伴うこともある。夕暮れに現れやすく、色彩のついた人物や動植物・模様などが強い感覺性をもって体験される。通常、患者は幻覚に対して客観的で批判的な態度を保っており、妄想的確信を抱くことはない。明らかな意識障害はなく見当識も保たれているが、睡眠リズムの障害がみられる。最初の症例を報告した Lhermitte J [1922] によれば、睡眠中の夢やナルコレプシーの入眠時幻覚と同様のものであるという。血管障害例が多く、一側の動眼神経麻痺と対側の小脳性運動失調、舞踏病・アテトーゼなどの不随意運動を伴うことが多い。病変は中脳吻側にあり、脳幹網様体から視床への投射路を遮断するために、大脳皮質が自走的に賦活され幻覚を産生するという病態が想定されている。

(西川 隆)

⇒入眠時幻覚, アテトーゼ

【文献】 Lhermitte J (1922), Manford M, Andermann F (1998)

## 脳局在論

[英] theory of cerebral localization

[独] zelebrale Lokalisationslehre

[仏] théorie de localisation cérébrale

さまざまな心的機能が脳の一定の部位に局在すると考える立場。現在では比較的広くみとめられているといっただけが、1861年のBroca Pによる失語症例の公表に至るまで、あるいはその後も、言語などの高次の機能が特定の部位に局在することについて多様な「異論」があって、これらは概括的に全体論と称されてきた。確かにBroca以前は、言語といった高次の機能が脳の特定の部位に局在することなどありえないというのがアカデミズムの保守的な立場であった(Flourens Pら)。しかしBroca, Wernicke Cを経て古典論が成立して以降に登場する反古典論の主張は、ある程度の局在をみとめつつも、図式的な局在には異を唱えるという共通点はあるにせよ、その主張はさまざまである。言語心像

によって引き起こされるデュシェンヌ型筋ジストロフィーがある。筋ジストロフィーの中で最も頻度が高く、筋力低下と筋萎縮が進行し、20～30歳頃までに死亡する予後不良の疾患である。(橋本亮太)

⇒ジストロフィン、筋強直性ジストロフィー

【文献】水野美邦 編 (2002)

## 味覚発作

【英】gustatory seizure

てんかん発作の国際分類 [1981] において、意識障害を伴わない単純部分発作 (simple partial seizure) の内の体性感覚ないし特殊感覚症状を伴う発作に含まれる。てんかん発作の始まりとして出現することが多く、単独で出現するのはまれである。苦味、酸味、塩味などの異常な味覚が発作的に出現するが、弁蓋部・島部 (opercular-insular region) に発作焦点を有する場合に生じる。(矢部博典)

⇒単純部分発作、嗅覚発作

【文献】Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy (1981)、井上有史 (1998)、和田豊治 (1975)

## マイクログリア

【英】microglia

グリア細胞の一種で、1919年にdel Rio-Hortega Pによって初めて記載された。旧称、小膠細胞。脊髄および脳全体に分布し、全体の5～15%を占めている。中胚葉起源の間質細胞で、網内系を構成し、形態学上また染色上において貪食細胞と類似の特徴を有する。機能的側面に関して長年謎であったが、近年解明が進んでいる。静止状態では樹状に突起を伸展して脳内の監視役としてシナプス間を含む微細な環境変化をモニターしている。環境変化に敏速に反応し活性状態になると、遊走能を有するアメーバ状の形態へ変化し貪食細胞マクロファージと類似した性質を呈し、炎症性サイトカインやフリーラジカルといっ

た細胞障害因子および神経栄養因子を産生する。こうして、中枢神経系における免疫応答・神経障害・神経保護において重要な役割を担い、アルツハイマー病などの神経変性疾患や神経損傷後の慢性疼痛の病態に深く関与している。統合失調症や気分障害など精神疾患においても、マイクログリア仮説という新しい病態・治療機序が近年提唱されている。

(加藤隆弘)

⇒アルツハイマー型認知症、疼痛性障害

【文献】del Rio-Hortega P (1919)、Hanisch UK、Kettenmann H (2007)、Monji A、Kato T、Kanba S (2009)、加藤隆弘 (2008)

## マイクログリア仮説 →マイクログリア

## 未視感

【仏】jamais vu

よく見知っているはずの物や場所について、初めて見たような違和感を感じる現象。既視感 (déjà vu) の反対概念で、英語の“never seen”に当たる仏語がそのまま概念名となっている。随伴する感情は「不気味」などの否定的なものであることが多いが、「新鮮」などの肯定的なものである場合もある。離人症や妄想気分との鑑別が問題になる。既視感と同様に側頭葉てんかんの精神発作の一型として出現することがある。(深尾憲二郎)

⇒既視感、側頭葉てんかん、精神発作

【文献】Penfield W、Jasper H (1954)

## 未熟型うつ病

【英】immature form of depression

成人前期に発症する双極性障害の一種。それまでは周囲から庇護されて葛藤もなく過ごしてきた20代後半～40代の男女に好発する。発症契機は職業上の挫折ないし家庭生活上の困難から思い通りの生活スタイルを維持できなくなる事態である。彼らは経過中に不安・焦燥優位のうつ病像を呈し、周囲に対して依

- antipsychotic drugs. *Neurology* 32 : 1335-1346.
- Burns T (2006) *Psychiatry: a very short introduction*. Oxford University Press, Oxford.
- Burton N (2009) *Clinical skills for OSCEs*, 3rd edition. Scion Publishing, Bloxham.
- Burton SW, Akiskal HS, ed. (1990) *Dysthymic disorder*. Gaskell, London. (佐藤哲哉, 坂戸薫, 佐藤聡 訳 : 気分変調症. 金剛出版, 1992.)
- Bush G, Fink M, Petrides G, et al. (1996) *Catania I: Rating scale and standardized examination*. *Acta Psychiatr Scand* 93 (2) : 129-136.
- Butler RN (1963) The life review : an interpretation of reminiscence in the aged. *Psychiatry* 26 : 65-76.
- Byng-Hall J (1973) Family myths used as defence in conjoint family therapy. *Brit J of Med Psychol* 46 : 239-250.

## C

- Cade JFJ (1949) Lithium salts in the treatment of psychotic excitement. *Med J Aust* 2 : 349-352.
- Calligaris C (1991) *Pour une clinique différentielle des psychoses*. Point Hors Ligne, Paris. (小出浩之, 西尾彰泰 訳 : 妄想はなぜ必要か. 岩波書店, 2008.)
- Campbell D, Hale R (1991) Suicidal acts. In : Holmes J, ed. *Textbook of psychotherapy in psychiatric practice*. Churchill Livingstone, London, pp 287-306.
- Cannon WB (1932) *Wisdom of the body*. Kegan Paul, Trench, Trubner and Company Ltd, London. (館鄰, 館澄江 訳 : からだの知恵——この不思議なはたらき. 講談社学術文庫. 講談社, 1981.)
- Capecci MR (1989) Altering the genome by homologous recombination. *Science* 244 : 1288-1292.
- Capgras J (1918) Le délire d'interprétation. *Ann méd-psychol* 74 : 221-240, 361-376.
- Capgras J, Reboul-Lachaux J (1923) L'illusion des <Sosies> dans un délire systématisé chronique : présentation de malade. *Bull Soci Clin Méd Ment* 11 : 6-16. (大原貢 訳 : 慢性系統性妄想における「瓜二つ」の錯覚. 松下正明, 影山任佐 編, 統合失調症・妄想. 現代精神医学の礎 2. 時空出版, 2009.)
- Caplan G (1961) *An approach to community mental health*. Grune & Stratton, New York. (山本和郎 訳 : 地域精神衛生の理論と実際. 医学書院, 1968.)
- (1964) *Principles of preventive psychiatry*. Tavistock Publications, London. (新福尚武 監訳 : 予防精神医学. 朝倉書店, 1970.)
- Capruso D, Levin HS (2000) Neurobehavioural sequelae of head injury. In : Cooper P, Golfinos J, ed. *Head injury*. McGraw-Hill, New York, pp 525-553.
- Carpenter L, Kupfer D, Frank E (1986) Is diurnal variation a meaningful symptom in unipolar depression? *J Affect Dis* 11 (3) : 255-264.
- Carpenter MB, Sutin J (1983) *Human neuroanatomy*. Williams & Wilkins, London. (近藤尚武, 千葉胤道 訳 : 神経解剖学. 西村書店, 1995.)
- Carr HY, Purcell EM (1954) Effects of diffusion on free precession in nuclear magnetic resonance experiments. *Phys Rev* 94 : 630-638.
- Carroll BJ (1982) The dexamethasone suppression test for melancholia. *Br J Psychiatry* 140 : 292-304.
- Carskadon MA (1993) *Encyclopedia of sleep and dreaming*. Macmillan Library Reference, New York.
- Cartwright JH (2001) *Evolutionary explanations of human behaviour*. Routledge. (鈴木光太郎, 河野和明 訳 : 進化心理学入門. 新曜社, 2005.)
- Carvalho AF, Machado JR, Cavalcante JL (2009) Augmentation strategies for treatment-resistant depression. *Curr Opin Psychiatry* 22 (1) : 7-12.
- Case C, Dalley T (1992) *The handbook of art therapy*. Routledge, London. (岡昌之 監訳 : 芸術療法ハンドブック. 誠信書房, 1997.)
- Casey P, Kelly B (2007) *Fish's clinical psychopathology: signs and symptoms in psychiatry*, 3rd edition.



健康病気評価尺度 218/  
 健康への逃避 431r  
 言語化 107, 507, 288r, 867/  
 言語学習能力検査 5/  
 言語危機 288r, 756r, 993/  
 言語蹉跌 724r  
 言語自己感 400r  
 言語障害 346/  
 言語障害発作 605/  
 言語衝動 289r  
 言語常同症 372r  
 言語新作 411, 645/, 942r, 1007r  
 言語新作 →造語症  
 言語性IQ (VIQ) 84r, 88r  
 言語性運動幻覚 289r  
 言語性幻覚 471r, 482/, 588r  
 言語性幻聴 31r, 299/, 769r  
 言語性錯乱 942r  
 言語性精神運動幻覚 95r, 242/,  
 284r, 289/, 618r, 769/  
 言語性聴覚失認 1058r  
 言語性保続 637r  
 言語遅滞 289r  
 言語中枢 290/  
 言語の虐待 215/  
 言語的コミュニケーション  
 →非言語的コミュニケーション/  
 言語的コミュニケーション  
 言語的〈他者〉996r  
 言語的フラッシュバック 473r  
 言語発達遅滞 289r  
 言語発達遅滞児 5/  
 言語表象 290r  
 言語不当配列 290r  
 言語野孤立症候群 714/  
 言語連想検査 291/, 1039/  
 顕在記憶 291/, 628/, 721/  
 現在症診察表 316r  
 現在症診察表PSEシステム 87r  
 顕在夢 17r, 156r, 1037r  
 幻視 40/, 284/, 284r, 285/, 292/,  
 342r, 384/, 454r, 490r, 633r, 656/,  
 710/, 791r, 870/, 997r, 1081r  
 幻肢〔幻影肢〕284r, 291r, 533r  
 原始感覚 392/, 946r  
 顯示者 292r  
 幻肢痛 291r  
 現実エクスポージャー 419r  
 現実界 108r, 288/, 292r, 320/, 481r,  
 483r, 648/, 665r, 1037/, 1038r,  
 1045r, 1053r  
 現実感 293/  
 現実感消失(喪失) 293r, 442/,  
 654r, 974r, 1061/, 1061r  
 現実機能 293r  
 現実原則 131/, 1078r  
 現実原則 →快感原則/現実原則

現実検討 294/  
 現実見当識 294r  
 現実検討能力 224/, 1067r  
 現実原理 932r  
 現実自己 972r  
 現実神経症 192r, 266/, 294r, 395/,  
 591r  
 現実的アプローチ 37/  
 現実的なもの 1053r  
 現実との生きた接触(の喪失, の障  
 害) 190r, 212r, 295/, 442/, 756r,  
 759/, 892r, 893/, 994r  
 現実の赤ん坊(乳児) 649r, 1082/  
 現実否認 956r  
 現実不安 93r, 295r  
 原始的情動体験 34r  
 原始的不安 202/  
 原始的防衛 916r  
 原始的防衛機制 295r, 638r, 750/,  
 1017r, 1063/  
 原始反射 296/, 822/  
 原始反応 260r, 296r, 421/, 694r,  
 832/, 1055r, 1080r  
 現象学 3r, 49/, 296r, 632r, 796/,  
 854r, 925/, 992r, 1030/, 1069/,  
 1069r  
 現象学の還元 296r  
 現象学的神医学 206/  
 現象学的神病理学 49r, 600/  
 現象学的人間学 468/, 723r  
 現象学的人間学派 736r  
 現象学-人間学 152/, 993/  
 検証的試験 696/  
 幻触 284r, 297/, 765r  
 嫌人症 297r  
 幻身体 291r  
 減衰 297r  
 幻声 63r, 299/, 417/, 482/, 589/  
 幻声 →幻聴  
 幻想 82r  
 幻想[精神分析] 298/  
 幻想[ラカン] 298/  
 幻想準備性 999/  
 幻想的相互作用 1082/  
 幻想の赤ん坊(乳児) 649r, 1082/  
 現存在 796/, 881r, 901/, 961r  
 現存在秩序 723r, 901/  
 現存在分析 206/, 298r, 478r, 543r,  
 756r, 796/, 898/, 925/, 961r  
 現存在分析論 796/  
 現存在分析論療法 796/  
 倦怠感 709r  
 現代フロイト派 375/  
 幻聴 25/, 120r, 149r, 284/, 284r,  
 285r, 289/, 289r, 299/, 316r, 318/,  
 398r, 465r, 490r, 621r, 623/, 712/,  
 769/, 791r, 905r

限定責任能力 913/, 955r  
 限定責任能力論 87/  
 限定的排除 698r  
 見当識 299r, 363/, 425/, 636/, 833/  
 見当識障害 33r, 347/, 425/, 893r,  
 912r  
 原発焦点 230r  
 原発性アルドステロン症 913r  
 原発性副甲状腺機能亢進症 911r  
 原発性副腎皮質機能低下症 12/,  
 103/  
 原発性不眠症 145r  
 原発性無月経 684/  
 原発全般てんかん →全般てんかん  
 原発全般てんかん 639/  
 腱反射亢進 526/  
 原父 697r  
 原不安 299r, 511/, 664r, 870r  
 健忘 63/, 137/, 142r, 188r, 189/,  
 189r, 225/, 300/, 309r, 321/, 506/,  
 692r, 743/, 811r, 871/, 892/, 920/,  
 998/  
 健忘暗示 337/  
 健忘失語 300r, 348/, 392/, 425r,  
 427/, 432/  
 健忘症候群 32/, 71/, 91/, 111/, 189r,  
 291/, 300/, 347/, 347r, 517r, 646r,  
 721/, 734r, 810/  
 健忘障壁 681r  
 健忘性失音楽 422r  
 健忘性失見当識 425/  
 幻味 284r, 301/  
 権力・支配型連続殺人 140/  
 権力への意志 961r

## コ

語唾 301r  
 5因子モデル  
 →NEO〔5因子モデル〕  
 口愛期 340r, 1065/  
 口愛性格 60r  
 高圧性水頭症 546/  
 抗アドレナリン $\alpha_1$ 作用 303r  
 高アンモニア血症 183/, 794r  
 高EE 155/  
 行為障害〔素行障害〕181r, 302/,  
 493/, 706/, 840/, 853/, 1075r  
 行為心迫 74/, 96/, 177r, 302r, 362r,  
 647/  
 行為能力 56/, 302r, 445/, 586r, 658/  
 抗うつ効果増強療法 642r  
 抗うつ効果増強療法 →増強療法  
 [オーギュメンテーション]  
 抗うつ薬 9r, 73/, 103r, 105/, 208r,  
 229/, 264/, 303/, 313r, 490/, 605r,  
 624/, 624r, 642r, 660r, 677r, 843r,

Doppelsehen 404r  
 doppelte Buchführung 787l  
 doppelte Orientierung 787l  
 Dora (case) 774l  
 dorsolateraler präfrontaler Kortex (DLPFC) 268l, 635l  
 dose equivalence of psychotropic drugs 315l  
 double 787r  
 double blind 685r  
 double-blind test 788l  
 double-blind trial 788l  
 double depression 685l, 1043l  
 double orientation 787l  
 Down syndrome 677l  
 down regulation 677r  
 DPA (dopamine partial agonist) 313l  
 DPC (diagnosis procedure combination) 256r  
 Draw-A-Person Test 539l  
 dream 1035r  
 dream interpretation 1037r  
 dreamy state 304l, 998r  
 Drehtürprinzip 83r  
 drift hypothesis 1067r  
 drive 73r, 973l, 1044r, 1046r  
 drive-discharge affect 1046l  
 drive theories 752l  
 dromomania 823l  
 drowsiness 271l  
 DRPLA (dentatorubral-pallidoluy-sian atrophy) 412r, 524r, 693r, 895r, 970r  
 Drug Addiction Rehabilitation Center (DARC) 686r  
 Drug Attitude Inventory (DAI) 726l  
 drug dependence 1028l  
 drug-drug interaction 1028r  
 Drug Induced Extra-Pyramidal Symptoms Scale (DIEPSS) 545r, 731r  
 drug-induced psychiatric disorders 73l  
 drug-metabolizing enzyme 1029l  
 drunkenness 1004l  
 DSM 345r, 568l, 726l  
 DSM-III 535r, 646l  
 DSM-III-R 535r  
 DSM-IV 536l  
 DSPS (delayed sleep phase syndrome) 134l, 552l  
 DTI 805r  
 dual unity 228r  
 dumbness 301r  
 duration of untreated psychosis

599l  
 Durcharbeitung 734r  
 Durchgangssyndrom 722r  
 duty to protect privileged information 469l  
 DV (domestic violence) 161l, 773r, 1008l  
 DWI (diffusion weighted image) 113r  
 DY-BOCS 45l  
 dying patient 1072r  
 dynamic point of view 1060l  
 dynamic psychiatry 1059r  
 dynamische Entleerung 275r  
 dynamische Grundkonstellation 1060r  
 dynamische Psychiatrie 1059r  
 dysarthria 301r, 981r  
 dysautonomia 503l  
 Dysautonomie 503l  
 dysbindin 730r, 766l  
 dysgenesis of corpus callosum 818r  
 dyslexia 147r, 429l  
 dysmetria 428r  
 dysmnnesia 189r  
 Dysmnésie 189r  
 dysmnésie 189r  
 dysmorphophobia 458l  
 Dysmorphophobie 458l  
 dysnoia 347l  
 dyspareunia 577r, 919r  
 dysphoria 176r, 211l  
 dysphoric mania 68r, 911r  
 dysphoric mood 207r  
 dysplastic type 837r  
 dysplastisch 195r  
 dysplastischer Typ 837r  
 dysprosody 422r  
 dysthymia 176r, 211r  
 dysthymic type 730l  
 Dysthymie 211r  
 dysthymie 211r  
 dystrophia myotonica 242r  
 dystrophic neuritis 676r  
 dystrophin 416r

## E

EAE (experimental allergic encephalomyelitis) 220l  
 early infantile autism 162r  
 early infantile epileptic encephalopathy with suppression-burst (EIEE) 642r  
 early intervention 642l  
 early onset dementia 501l

early psychosis 642l  
 early recollection 641r  
 early schizophrenia 495l  
 eating disorders 621r  
 EBM (evidence-based medicine) 4r, 69r, 109r, 110l, 111l, 1006l  
 E-box 771l  
 ébriété 1004l  
 échelle du coma de Glasgow 253r  
 echinococcosis 959l  
 écho de la lecture 316r, 769r  
 écho de la pensée 316l  
 écho de l'écriture 769r  
 echo of reading 769r  
 echo planar imaging (EPI) 113r  
 echo symptom 851r  
 Echoerscheinungen 851r, 1005l  
 echolalia 334r, 851r  
 Echolalie 1005l  
 echophenomene 851r  
 echophenomenon 851r  
 echopraxia 851r  
 Echopraxie 1005l  
 echte Wahnidee 1013l  
 echter Wahn 62r, 1012r, 1018l  
 ecnmnesia 101r  
 ecnmésie 101r  
 economic viewpoint 266l  
 Economo encephalitis 102r  
 ecstasy 101r  
 ECT 460l, 723l  
 ED 609l  
 Edinburgh Handedness Inventory 103l  
 Edinburgh Postnatal Depression Scale 373l  
 educational treatment 717l  
 EE (expressed emotion) 43l, 155l, 541r  
 EEG 594l, 816l, 949l  
 EEG topography 817l  
 effect size (ES) 304l  
 effort syndrome 531l  
 ego 380l, 394l, 749l  
 ego-alien 386r, 572r  
 ego apparatus 387l  
 ego autonomy 386l  
 ego-body integration 534l  
 ego boundaries lost syndrome 382r  
 ego boundary 382l, 382r, 676l  
 ego cathexis 381r, 382l  
 ego consciousness 381l  
 ego defect 384l  
 ego disorder 385l  
 ego-dystonic 386r  
 ego feeling 381l, 381r, 382l